

## 第9回一関市総合教育会議 会議録

- 1 会議名 第9回一関市総合教育会議
- 2 開催日時 令和元年6月6日(木) 午前10時00分から午前11時30分まで
- 3 開催場所 一関保健センター 栄養指導室
- 4 出席者
  - (1) 構成員  
勝部修市長、小菅正晴教育長、千葉和夫教育委員、小野寺眞澄教育委員、佐藤一伯教育委員、伊藤一志教育委員
  - (2) 事務局等  
市長公室長、市長公室次長兼政策企画課長、政策企画課政策推進係長、政策企画課主事、まちづくり推進部いきがづくり課長  
教育部長、一関図書館長、教育部次長兼学校教育課長、教育部次長兼文化財課長兼骨寺荘園室長、一関市博物館次長、教育総務課長、教育総務課長補佐兼庶務係長
  - (3) ゲストスピーカー  
一関市PTA連合会会長兼山目小学校PTA会長石津幸輝氏、本寺地区神楽佐藤ひろの氏
- 5 議題  
これからの学校と地域のつながりについて(人口減少の中で)
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 報道 2社
- 8 挨拶  
市長挨拶

この地域に住み、この地域で育っていく子どもたちが社会人となって、この地域の人材として定着するうえで、地域とのつながりは大きいです。そういう観点から総合的に見ていきたいと思えます。今回は、ゲストスピーカーとして、石津さんと佐藤さんのお二人に出席をお願いしました。それぞれの活動についてお話いただき、そこを切り口に多方面から意見交換を深めていきます。

### ゲストスピーカーからの情報提供

- ・一関市PTA連合会会長兼山目小学校PTA会長石津幸輝氏から山目小学校のPTA活動等の紹介
- ・本寺地区神楽の佐藤ひろの氏から本寺地区神楽の活動の紹介

教育長 今のお二人の発表を聞いた感想等についてお聞きしたいと思います。

千葉委員 石津さんは色々なことをされていて、とにかく興味のあることをなんでもやってみようという精神がPTA会長としての活動の源になっていると思えます。お二人の発表を聞いて一番感じたのは、この二人の個性や魅力があるからできるけど、その魅力を生み出した教育・地域の基盤を育てることができるといことです。個性を生み出す学校教育の在り方というの我々が考えていかなければと感じました。

小野寺委員 大切なのは、リーダーの存在と地域の方が一緒に活動することができるかどうかということだと思います。

市長 少子化が進む状況で、子どもがたくさんいた時代に造った施設をどのように活用していくのかということを考えなければなりません。

教育長 今日の懇談のテーマが「これからの学校と地域のつながりについて（人口減少の中で）」ということで、一関市の人口減少の状況についてみんなで把握したいと思います。資料を用意しましたので、情報提供します。

教育総務課長：資料No.1により説明

教育長 数値的にグラフを見ても非常に人口の減少、子どもの数の減少、小中学生の減少も激しい状況です。ちなみに岩手県の過去10年間の小中学生の人口減少は、19%となっており、一関市は、20%でした。これらのグラフを見ていかがですか。

伊藤委員 本当に深刻だと思います。なかなか自分に見合った仕事がないということで、若い人たちが地元に残って子どもを育むということが少なくなってきたように感じます。行政としても、企業誘致をして若者が定着するような生活環境を整える必要があると思います。

佐藤委員 一関市を広域で見ると、平泉と縁の深い場所です。そこで地元世界的に素晴らしい文化があることから、地元への愛着を醸成していくことが大事だと思います。

市長 どの市町村でも人口減少が一番深刻な課題です。その状況の中で地域コミュニティを維持することが大変になっています。工場の機械化が進む中、今までのような企業誘致では効果があまりないので、地域の特色を出していきたいと考えています。一関市の子育て支援は、子どもが生まれる前から始まります。その子どもが就職し、結婚して自立するまでの支援をしています。一関市だけでなく、近隣の市町と連携して対策を検討し、実行しています。

教育長 次は、学校と地域について入っていきますが、ひろのさんは学校を卒業して一関市に住もうと思ったのはなぜですか。

佐藤ゲスト 一旦地元を離れて外を見たからこそ、地元の居心地の良さを感じ、今の地元が故郷だと心から思えます。

教育長 一関市には、どんな魅力・居心地の良さがありますか。

佐藤ゲスト 温かくて優しいし、地域で連携していることが魅力だと思います。

スピーカー

教育長 この後は、人口減少の中で学校がどのように変わっていくのか、また、学校の役割と地域とのつながりについて話をしていきたいと思います。人口減少が進む中での今後の学校の姿について、どんなイメージを持っていますか。

千葉委員 若者の地元離れが問題となっているが、パソコン一つで仕事ができる時代となれば、会社に行かなくても仕事ができます。教育においても自宅から授業に参加できれば、学校に通わなくてもよくなるし、いじめの問題もなくなると思います。自分で興味を持ち、仲間を集めて何かをする力を持った人を育てるのがこれからの教育だと考えます。

教育長 今後A Iの影響で仕事が少なくなると予想されますが、教師が無くなる確率は低い  
そうです。社会性を育てるのは学校の大きな役割ですし、いじめ問題も人でなければ  
解決できないと思います。

佐藤委員 このまま人口が減っていき、地域の力が弱まると、今までのように学校だけで教育  
を支えていくことは難しくなっています。現在地域で行っていることが、他地域に  
はない魅力になっていると思いますので、それを再確認して、より高めていくことが  
大事だと思います。

市 長 地域を維持していくためには、フェイス・トゥ・フェイスが必要であり、欠かせな  
い部分だと思います。

小野寺委員 学校というのは社会に出る前段階であり、団体生活・集団生活の中で、人との関わ  
り合いをもって卒業します。子どもたちが将来自立できるように、子どもたちの能力  
ややりたいことを重要視して、一人ひとりの子どもの能力を引き伸ばしてあげること  
が、これからの学校の在り方だと思います。

教育長 子どもたちに自分が生まれ育った土地の魅力について知ってもらうことが、地域の  
活性化につながります。地域に子どもが残る、あるいは将来戻ってきってもらうため  
には、子どもの時代に周りの地域の方々と触れ合ったり、地域のことを知ったりする機  
会が必要です。学校の役割は、地域との関わり方をこれまで以上に考えていくことだ  
と思います。

伊藤委員 これからは学校が地域に働きかけるのではなく、逆に地域が学校に働きかけて、つ  
ながりを持っていくべきです。心の豊かな子どもたちは、地域で子どもを育てる土壌  
が醸成されている地域で育っています。今の状況の中で真剣に教育を考えて、子ども  
たちを育てていくということが大切です。

学校教育課長：資料No.3により説明

伊藤委員 コミュニティ・スクールの運営委員には、教育関係者のみではなく、一般の方を交  
えて協議すれば、より広い視野で活動ができると思います。

佐藤ゲスト みんなが自分たちのことだけではなくて、子どもたちのことを最優先に考えられ  
るような一関市になったら素敵だと思います。

市 長 それぞれの地域で子どもたちが自分の生まれ育った故郷を堂々と語れる、そういう  
子どもたちを一人でも多く育てていけるように、ご協力をよろしくお願いします。

## 9 担当課

市長公室政策企画課